

手紙と母のちから

新潟県上越市立城北中学校

三年 楠田 鈴音

私の母は看護師です。母は私が小さいときから夜勤をしています。夕飯を食べるときや寝るときに母がいないこと、朝起きると母がいないことは、幼い私にとってはとても悲しくつらいことでした。小さい頃は母が夜勤に行ってしまった後、寂しくてよく泣いていました。だから、私は母の仕事が大嫌いでした。小さいときの私は「どうしてみんなの家には夜もお母さんがいるのに、私の家にはいないの」と思っていました。しかし、母は私たちのために一生懸命働いてくれていることを、私は知っていました。母は時々私に仕事の話をしてくれます。一番大変なのは母なのに、いつも楽しそうに話してくれていました。私は、その話を聞いているうちに看護師はすごい仕事なのだと思うようになりました。でも夜は母がいないときの寂しい気持ちは変わりませんでした。

そんなある日、母が夜勤に行ってしまった後、私起きると机の上に二枚の紙が置いてありました。それは私と姉に宛てて書いた母からの手紙でした。手紙には「すずへ。おはよう！ よく眠れた？ 夜は暑くなかった？ 水筒忘れずにね。暑いだろうけれど頑張れ。」と書いてありました。普段は朝起き

たら直接言ってくれる言葉を手紙に書いてくれました。私はどれだけ寂しくても母が仕事に行くまでは泣くのを我慢して、母の前では泣かないようにしていました。しかし、母は私が泣いていることを知っていて、私にづらい思いをさせないようにと手紙を書いてくれたのです。

手紙は私が保育園の頃から始まりました。その頃は字を書いたり読んだりできるようになったばかりでした。母は私が読みやすいように、ひらがなにするだけでなく、必ず絵を添えてくれました。夜勤の日は必ず毎日書いてくれたので、私も母に手紙を書くことにしました。それは夜勤明けで疲れて帰ってくるだろう母に宛てることもあれば、寝る前に書いておき、夜勤に行く前の母に宛てたこともありました。そんなやりとりをしているうちにお互いに伝えたいことをたくさん書くようになりました。どの手紙をみても必ず最後には「大好き」という言葉が私たちの手紙には入っていました。

しかし、私が中学生になってからは、だんだんと手紙を書くことが面倒になり、数も減っていききました。それに反比例するように母とのけんかの回数が増えていきました。しかし、いくらけんかをしても母は手紙を書くことをやめませんでした。あるときはけんかをしたまま謝ることができず、母が夜勤に行ってしまうしました。こうなると翌日の夕方まで母と会うことができないので、もやもやとした気持ちで朝起きると、机の上にはいつものように母の手紙がありました。その手紙を読むと自然と素直になりました。すぐに仲直りができるのは、やはり母の手紙のおかげなのだと思います。

私は母の仕事のせいで小さい頃からたくさん寂しい思いをしてきました。しかし、私に一番元氣と勇

気くれたのもまた母なのです。今までやりとりをした手紙の数はもう数え切れないほどです。私はその手紙一枚一枚を今も大切にしまっています。最近では将来のことについて考えることが増えてきました。小さい頃は母の仕事が嫌いでしたが、なぜだか看護師の仕事にはあこがれがあり、私の夢となりました。母がいないのは嫌だったけれど、楽しそうに仕事の話をする母をみて、あこがれていたのだと思います。

二年生で職場体験学習を行いました。残念ながら看護師の仕事は経験できませんでしたが、社会に出て働く経験をして、改めてその大変さを感じ、母がいかに仕事で苦労をしているのかということを感じました。人の生死にかかわる場面にも立ち会うことだってあるだろうし、相当神経をすり減らすことだってあるはずです。そんなことを全く感じさせず明るく過ごしている母を、私は本当にすごいと思います。

三年生では看護大学に見学に行く機会があり、看護師について学ぶことができました。専門的な知識だけでなく、患者さんとのコミュニケーション能力も求められる看護師という仕事に、私は「本当に自分はこの仕事ができるのだろうか」と不安になりました。そんなときも母は私を心から励ましてくれました。だから私の夢は今も変わらず看護師になることです。努力し続ければ必ずなれると思っています。しかし私はただの看護師にはなりたくありません。母のような人を元気づけ、人を笑顔にして、人に勇気を与えられる、そんな看護師になりたいです。そしていつの日か、自分も母になるときがきたら、自分の子どもの心に寄り添える母でありたいと思います。

このテーマに決めたきっかけは、部屋を掃除しているときに、母が昔書いた手紙をたまたま見つけたからです。母は夜勤のときに毎回私に手紙を書いていて、手紙を読むのが当たり前でした。しかし、そんな当たり前で身近なことが自分に一番の勇気を与えてくれていることを読んだ人にも伝えたいです。

作文を書くに当たって